

特色ある学校

地域一体型「イノベーション KT」の推進 —「自ら力」を「自ら未来を切り開く力」へ—

高知県立高知工業高等学校 企画・情報部長 上村 正博

1. はじめに

本校は創立 108 年目を迎える高知県内で最も歴史と伝統のある工業高校で、全日制・定時制を併せて 800 名を超える生徒がものづくりを通してひとづくり教育のもと、学習に励んでいる。

教育方針は、創立者竹内綱・明太郎父子の「工業富国基」の建学精神にもとづき、「勤労と責任を重んじ、逞しい実践力と創造性に富み、健康で品格のある工業技術者を育成する」である。

現在は、イノベーション KT（新機軸で見る、革新・変革を図る KOCHI TECH）の愛称で、「探究学習」、「リーダー養成塾」を取組の柱とし、「自ら学び・自ら考え・自ら行動する力」、すなわち「自ら力」の醸成を目指し、様々な教育活動に取り組んでいる。時代の著しい変化に対応できる人材の育成を目指し、令和 2 年度で 7 年目を迎えたプロジェクトである。

2. イノベーション KT のはじまり

本校は、明るく元気で懸命に学習に取り組む生徒が多いが、導入へ向け準備に取り組んだ 8 年前は、自己を分析したり、他者の気持ちを自分に置きかえたりすることや、集団で意見を交わし合い建設的な議論をすることの苦手な生徒も多かった。集団討論が企業での入社試験に取り入れられた時期とも重なり、成績優秀者および高次の資格取得者であっても、進路実現で躓く生徒も出始めた。

また、全国的にも入社後の早期退職者や、フリーター・ひきこもりが大きな社会問題となっ

ており、こうした経緯から、本校は「自ら力」をもった人材の育成を目指すこととなった。

従来の「指導者主体の与える教育」から脱却し、実社会で「自ら力」を発揮して、いかなる逆境にも立ち向かえる人材育成を目標に「全ての教育活動を見直し、地域一体型の取組を志向すること」を掲げ、本校の教育方針に沿った育成したい資質・能力の向上を目指しスタートした。

3. イノベーション KT の概要

下図はイノベーション KT を概要化したもので、各取組で成長した力を栄養源として、生徒をイメージした新芽が育ち「社会で輝きいきる」ことを表現した。



図1 イノベーション KT 概念図

また、その育ちは「個」のみではなく様々な地域の「絆」による成長であることを太陽に見立て、大きな成長の肥しとなっていることを表現した。

表1 概念図に表現した成長を目指す力

取組内容		目指す力	
探究学習	私のお気に入り	1 学年	分析力
	ものバージョン	1 学年	開発力
	スクールイノベーション	2 学年	企画力
	課題研究	3 学年	実践力
リーダー養成塾	キックオフセミナー	1 学年	先見力
	進路ガイダンス	全学年	想造力
TEAM研修	課題解決型宿泊研修	1 学年	協働力

4. イノベーションKTの取組内容

(1) 一つ目の大きな柱「探究学習」

県立高知工科大学との連携事業で「探究」をキーワードに、発表活動や集団活動でいきる力の成長を目指した学習である。

◆発表活動「私のお気に入り」

1年次の1学期、「探究(総合的な探究の時間)」を使用し「私のお気に入り」をテーマに自分自身の興味・関心を掘り下げ、工夫を凝らしたA3サイズのポスターを制作する。そして、中学校の先生方の参観の下(中高連絡会時)仲間の前で発表活動を行い、互いのプレゼンを評価する。

事後の学習として、自己評価と仲間評価を比較し「振り返りシート」にまとめ「分析力」を高める。学習の初めは表現や評価の意義を学ぶとともに、入学当初の取組のため各ホーム担任による教員プレゼンも実施し、教員と生徒の関係づくりも図っている。これから3年間高校生活を共にする仲間との活動を通して「自己肯定



図2 成長を目指す力



写真1 グループ発表の様子

感」の成長を期待した活動である。

◆集団活動「ものバージョン」

「私のお気に入り」の学習後に工業科の枠を超えた混合班を構成し、2・3学期間にわたり「開発力」の成長を目指し集団活動を実施する。

ものづくりに必要な視点や観点、歴史を学び、「従来あるものの改良」や「新たなものの開発」をテーマに集団討論を重ね、構想されたアイデアをもとに製作活動を行う。また、成果の発表活動を教室単位や学年単位で行うと共に、学年発表で選出された代表班は、1年間の集大成として、年度末に開かれる1,000人規模の「課題



図3 成長を目指す力



写真2 教室発表の様子

研究発表会」にて成果の発表に挑む活動である。

◆ 集団活動「スクールイノベーション」

2年次のLHを年間12時間程度使用し、集団活動を通じて学校生活や教育活動の現状を分析し、「楽しく成長」をキーワードに、主体的に成長できる環境の改善や提案を行う。アイデアや発想が伝わる企画書を作成し、教室・学年単位で発表活動を行い、将来の具現化を目指す。



図4 成長を目指す力

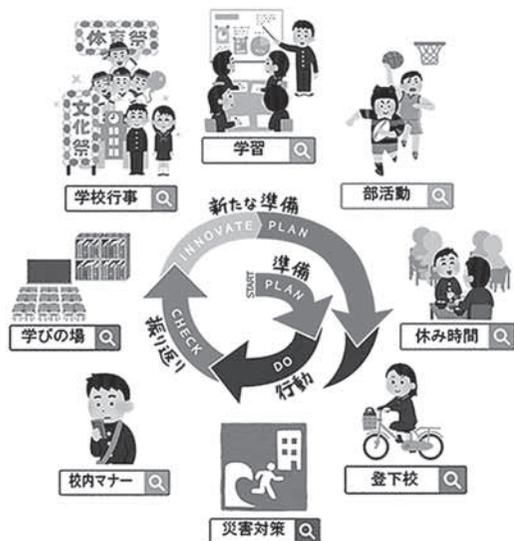


図5 現状分析の観点

◆ 科目「課題研究」

探究学習の集大成として、それまで培った分析力や開発力等を活かし、自ら研究テーマを掲げ、3年次において1年間にわたり様々な問題の発見や解決活動を通して「実践力」の成長を目指す。成果の発表としては、中学生体験入学時の中間発表会や各工業科別の発表会、また、最終発表の場として地域の事業所や中学生を招

いた「課題研究発表会」を年度末に実施する。

(2) 二つ目の大きな柱「リーダー養成塾」

(株) ビスタワークス研究所等の地域事業所や同窓会との連携事業で、「リーダーシップ」をキーワードに、実社会で活躍する諸先輩と共に社会を担う人材の育成を目指す。年次進行で「学ぶ側」から「伝える側」に変わる学習で、それぞれの立場を経験することで視野を広げ、色々な観点の育成を目指した学習である。

	伝える側	学ぶ側
キックオフセミナー	3年生	1年生
進路ガイダンス	3年生	1年生
進路ガイダンス	同窓生	2年生
CHANGE		
キックオフセミナー	3年生	1年生
進路ガイダンス	3年生	1年生
進路ガイダンス	同窓生	2年生

図6 リーダー養成塾の概念図

◆ ワークショップ「キックオフセミナー」

4月当初にキャリア教育の観点から「自力」を育成するために、地域企業から人材育成のスペシャリストを講師に招き、企業の育成プログラムをもとに、新入学生が3年生とのワークショップを実施する。3年後の成長した自分を想像し、具体的に目標に掲げその目標実現のために何が必要かを学ぶ。有意義な高校生活に向け



写真3 目標を語る3年生

て「先見力」の成長を目指す。

◆ ワークショップ「進路ガイダンス」

前述と同様に企業の育成プログラムを基に、1年生が進路決定後の3年生と、また、進路決定に向かう2年生は同窓生と社会情勢や就労の意義等について2月に学習する。社会での「いきる力」の育成を図る観点から、未来に向けて想いを巡らしイメージを描き造り上げていく「想造力」の成長を目指す。全国各地で活躍する100名あまりの同窓生が参加する大きなプロジェクトである。



写真4 助言をする同窓生

(3) その他の取組紹介

◆ TEAM 研修「ウォークラリー」

入学当初の集団宿泊研修において「教室を超えた仲間づくり」をテーマに、ウォークラリーを実施する。ものバージョンと同様に、工業科の枠を超えて混合班を構成し、自然豊かな起伏のある山道をチームで歩き、様々な課題に挑戦する。個々の得意分野を活かし、同じ目的に向かって力を合わせる「協働力」の成長を目指す。



写真5 課題「3Dパズル」に挑戦

た学習である。

◆ 調査活動「ものづくり総合技術展」

11月に県内140以上のものづくり企業等が集合する技術展に参加し、各企業の先端技術や製品の調査を実施する。ものづくりの醍醐味を「見て・聞いて・感じて・知る」活動で、自身の経験や知識と結びつけた「学び」を記録する。

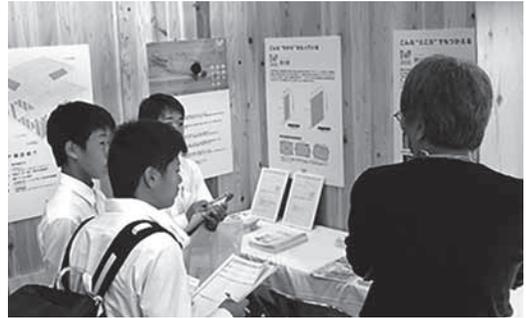


写真6 企業の方に質問

5. おわりに

工業高校は従来、各工業科の縦断的な教育が根付いているが、イノベーションKTは各工業科同士や普通教科と工業教科、また各学年の垣根を超えたプロジェクトで、学年団が主体となって7年目を迎え、全工協会の評価手法実践研究指定校としても、先端教育に沿った評価・指導方法の研究を続け3年目を迎えた。

成果としては、進路決定や資格取得、部活動の活性化等で現れているが、卒業後に社会で躍進する「いきる力」に活かされなければ意味がない。しかし、「自ら力」の成長を通して、何事にも失敗を恐れず挑戦する力と「失敗をバネにする力」の成長も重要な目標に掲げているので必ず良い影響があると期待している。

このプロジェクトの成長は、地域の企業や大学、同窓生の支援や協力が不可欠であり、これこそが本校の大きな財産といえる。これからも「TEAM 高知工業」として、スクラムを堅固なものにし、「自ら力」が「自ら未来を切り開く力」となるように、変革を恐れない地域一体型の教育として続けられるように努めていきたい。